

絶滅した鳥の標本から読み取れること
～東京大学総合研究博物館 インターメディアテクに行こうシリーズ②～

エピオルニスはかつてマダガスカル島に生息していた最も重い鳥類です。絶滅している動物の標本なのですね。



カエルの標本のケースを正面に見て右手側

インターメディアテク

2 階 D地点

エピオルニスの卵殻



1

動物最大の卵を観察しよう

知られている動物種の中で最大の卵を産むエピオルニス。「卵は自然界から生み出された完全無欠な『かたち』の代表」と解説にあります。



「完全無欠」と言わしめるエピオルニスの卵殻を観察しよう。



卵殻にはどのような特徴があるだろうか。



この卵は私たちが普段食べている鶏卵の何個分にあたるのか考えよう。

インターメディアテク

2 階 E地点

エピオルニスの全身骨格



2

エピオルニスとダチョウとの共通点と差異点は何か



エピオルニスの全身骨格標本の隣にダチョウの全身骨格標本があります。2種類の鳥の骨格標本を比較して、その共通点と差異点は何かを見つけ出そう。



ダチョウは現生の鳥類では最大の130kg程度の重さがある鳥です。

全身骨格の中の同じ部位に着目し比較して観察すると見つけやすいですよ。



そのままこの場所にしよう



3

重いからだを支える構造



エピオルニスは史上最も重い鳥類だということは知られていますが、重いからだを支える構造はどこにあるのかを考えよう。



骨格のそれぞれの部位には「守る」「支える」「動かす」役割があります。つくりと役割を関連付けて考えてみよう。

ここにあるエピオルニスの全身骨格標本はフランス国立自然史博物館で1851年に作成された標本から複製されたものです。



絶滅した生物の骨格標本の価値（役割）とは何だろう



感じたこと

わかったこと

考えたこと



新たな疑問

もっと知りたくなったこと

年

組

番

氏名